令和２年度　都城市立夏尾小学校　学校評価報告書①

【４段階評価　Ａ（４）＝そう思う　　Ｂ（３）＝だいたいそう思う　　Ｃ（２）＝あまりそう思わない　　Ｄ（１）＝そう思わない】

**○　学力の向上**

|  |  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- | --- |
| 重点目標 | 目標達成のための努力実践事項 | 学校の自己評価コメント（○●は職員の考察、◇◆は児童・保護者アンケートから） | 自　己評　定 | 関係者評　定 | 学校関係者コメント |
| ◎　諸学力調査で県（全国）平均値を上回る。◎　基礎的・基本的な内容の確実な定着を図る。◎　読書活動の充実と推進を図る。◎　家庭学習の習慣化を図る。 | 「分かる・できる授業の創造」をテーマに、指導方法の工夫・改善に努める。 | ◯　昨年度に引き続き算数科に焦点を当てた主題研究を行っており、本年度は事前研究会を２回行い、充実した研修ができた。◇　児童全員が「先生は分かるまで教えてくれる」と感じている。 | 3.2 | 4.0 | 人数が少ない分、分かるまで教えてもらえる子どもたちは幸せだと思う。それも夏尾のよさの一つである。 |
| 　習熟の時間やまとめる時間を設定する。 | ◯　授業で習熟の時間やまとめの時間を設定しており、今後も確実な定着をめざした取組を継続する必要がある。◆　学んだことが身についたと思える児童を増やす必要がある。 |
| 　毎月、学習指導週間を設定し、基本的な学習習慣の定着を図る。 | ◇　学習に関するアンケート結果から、聞く態度や発表の仕方に良い結果が見られる。◆　速く正確な読みや丁寧な文字に自信のない児童がいる。 |
| 　図書館サポーターや移動図書館を活用し、読書活動を推進する。 | ●　週1回の読書の日の設定、くれよん号の利用、児童による読書祭り開催等を行ったが、C・D評価の割合は、児童12％、職員22％、保護者33％であった。家庭を巻き込んだ読書活動推進も必要であると考えられる。 |
| 　家庭学習の習慣化に向けた働きかけを推進する。 | ◯　全児童が「学校の宿題にしっかり取り組んでいる」と回答しているが、「家庭学習が習慣化していない」と回答した保護者も20％いた。 |
| **《課題と改善点》**＊　校内研究で「ＩＣＴ機器を活用した授業改善」に取り組み、児童の学力向上と職員の授業力向上に努める。＊　授業の中で習熟の時間やまとめる時間を設定し、学習内容の確実な定着を図り、学力保障を目指す。＊　学びの礎となる読書活動を推進し、児童が読書に親しんでいると実感できるようにする。＊　保護者の協力を得ながら、家庭学習の習慣化を図る。 |

令和２年度　都城市立夏尾小学校　学校評価報告書②

【４段階評価　Ａ（４）＝そう思う　　Ｂ（３）＝だいたいそう思う　　Ｃ（２）＝あまりそう思わない　　Ｄ（１）＝そう思わない】

**○　豊かな心の育成**

|  |  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- | --- |
| 重点目標 | 目標達成のための努力実践事項 | 学校の自己評価コメント（○●は職員の考察、◇◆は児童・保護者アンケートから） | 自　己評　定 | 関係者評　定 | 学校関係者コメント |
| ◎　全児童が「学校が楽しい」と言えるようにする。◎　自信をもって人生を生き抜く力を育てる。◎　基本的な生活習慣の定着を図る。◎　環境美化を図り、感謝の心を育てる。 | 　思いやりの心や温かい人間関係の醸成に努める。 | ◆　２名の児童と２名の保護者がC評価であった。◯　日常的な指導や道徳の時間及び学級活動等における指導を通して相手を思いやる行動の取れる児童を育てる必要がある。 | 3.5 | 3.8 | 会う機会が少ないためか、校内では挨拶してくれるが、校外では挨拶をしてくれる児童は少ないようだ。しかし、スーパーなどで会うと名前を呼んで挨拶してくれる子どももいて嬉しい。 |
| 児童の自己肯定感を高める活動や環境を整備する。 | ◯　全児童が「自分にも友だちにも良いところがあり、おたがいを大切にしながら生活することができている」と回答している。全校帰りの会での取組等が影響していると考えられる。 |
| 　基本的な生活習慣の定着や規範意識の高揚を図るとともに、家庭との連携を図る。 | ◇　基本的な生活習慣が身についているかについて、児童は、A評価９名、B評価７名、C評価１名、保護者は、A評価２名、B評価１１名、C評価２名であった。◆　保護者から「我が子も含め、以前よりも児童のあいさつが少しできていないと思う。気持ちの良いあいさつができる人間になって欲しい」という意見があった。 |
| 　ボランティア活動を推進する。 | ◆　A・B評価の児童の割合が76.5％である。●　清掃やボランティアを自主的にやる意議や喜びを実感できていない児童がいると考えられる。 |
| **《課題と改善点》**＊　道徳教育や人権教育の推進に努め、全児童が「学校は楽しい」と言えるようにする。＊　児童の自己肯定感を高める活動や環境の整備を継続して行う。＊　気持ちの良い挨拶や返事ができる児童を育成する。＊　身近な環境美化など、自らできることを進んで行うボランティア精神を培う。 |

令和２年度　都城市立夏尾小学校　学校評価報告書③

【４段階評価　Ａ（４）＝そう思う　　Ｂ（３）＝だいたいそう思う　　Ｃ（２）＝あまりそう思わない　　Ｄ（１）＝そう思わない】

**○　健康・安全**

|  |  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- | --- |
| 重点目標 | 目標達成のための努力実践事項 | 学校の自己評価コメント（○●は職員の考察、◇◆は児童・保護者アンケートから） | 自　己評　定 | 関係者評　定 | 学校関係者コメント |
| ◎　児童一人ひとりの体力向上に努め、学校平均を県平均に近づける。◎　健康・安全意識を向上させ、実践化を図る。◎　食に関する指導を充実させる。 | 　体力向上プランに基づき、体育の時間の運動量の確保と体力向上のための指導を継続して行う。 | ◇　全児童が「体育の時間のいろんな運動にいっしょうけんめいに取り組んでいる」と回答しており、16名が自分の体力の向上を実感している。◯　体育の時間の継続的な取組が児童の体力向上につながっていると考えられる。 | 3.7 | 4.0 | いつ何が起きるか分からないので、避難訓練は毎年しっかりと行ってもらいたい。 |
| 　保健・給食指導週間を設定し、健康・安全の意識を高める。 | ◇　「健康面や安全面に気をつけて生活できている」と回答した児童が88.2％である。◯　昨年度よりも欠席日数が大幅に減った児童もいる。●　早寝・早起き・朝ごはんについて家庭との連携が必要である。 |
| 児童の健康観察や定期的な避難訓練・安全点検を確実に行う。 | ◯　毎日の健康チェックカードの記入と点検、体育的行事前の健康調査、地震・不審者・火災を想定した避難訓練、毎月の安全点検、職員を対象とした心肺蘇生法研修を行っている。 |
| 　給食指導や弁当の日の取組みにより、食に関する指導を充実させる。 | ◇　「花壇で育てて収穫し、普段は野菜をなかなか食べなかったが、ほうれん草を食べるようになった」という意見があった。●　一部の児童に給食の食べ残しがある。 |
| **《課題と改善点》**＊　体力向上プランに基づき、体育の時間の運動量の確保と体力向上のための指導を継続して行う。＊　毎日の健康チェックと早寝・早起き・朝ごはん、健康・安全意識の向上、食育の推進について、家庭との連携を図る。＊　噴火・地震・不審者・火災を想定した避難訓練を充実させるとともに、事故を未然に防ぐ安全点検や安全指導を確実に行う。 |

令和２年度　都城市立夏尾小学校　学校評価報告書④

【４段階評価　Ａ（４）＝そう思う　　Ｂ（３）＝だいたいそう思う　　Ｃ（２）＝あまりそう思わない　　Ｄ（１）＝そう思わない】

**○　ふるさと教育**

|  |  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- | --- |
| 重点目標 | 目標達成のための努力実践事項 | 学校の自己評価コメント（○は職員の考察、◎は児童・保護者アンケートから） | 自　己評　定 | 関係者評　定 | 学校関係者コメント |
| ◎　体験活動の推進◎　コミュニティ・スクールを目指す教育活動の充実と評価◎　ふるさと夏尾・都城を誇りに思う児童の育成 | 　野鳥教室、梅干し作り、サツマイモや大豆の栽など、夏尾小ならではの体験活動を推進する。 | ◯　保護者や地域の方々の協力を得ながら実施できた。●　コロナ禍で地域の方との交流活動ができなかった。●　保護者から「夏尾小にしかできない行事」への期待もあるが、学力向上との兼ね合い等から精選せざるを得ない面もある。 | 3.5 | 3.8 | 夏尾の素材を使った学習を工夫するとよい。例えば、生け花などは小さいときから経験していれば、大人になっても花を飾るようになるのではないだろうか。家庭教育学級などで保護者の意見を聞く場を設けることもコミュニティ・スクールの実現につながるのではないだろうか。 |
| 　学校運営協議会や保護者の意見を踏まえて、より良い教育活動を実現していく。 | ◯　PTA総会資料に対する保護者の意見の取りまとめ、アンケート結果を参考にした合同運動会の検討を行った。●　学校評価の自由記述に現れていない意見もあると思われる。多角的に意見を出せる「熟議」の場が必要ではないだろうか。 |
| 　定期的な情報発信やオープンスクールを通じて開かれた学校づくりに努める。 | ◯　学校だよりや学級通信、ホームページを通じて、学校の取組や子どもたちの様子を伝えている。また、花植えや梅干し作り、門松作りで保護者のボランティア参加が得られた。●　地域とのつながりをどう教育課程に位置づけるかが課題。 |
| 　奴踊りの継承と夏尾のよさを学ぶ場を工夫する。 | ◯　夏尾小職員OBの助言やビデオを参考にしながら奴踊りの練習に努め、レベルアップを図ることができた。◯　「夏尾のよさ」をテーマにした授業を行ったことにより、全児童が夏尾・御池には良いところがいっぱいあると感じている。◆　子どもがふるさとに誇りを感じていないとする保護者が4名。 |
| **《課題と改善点》**＊　夏尾の素材を使った学習内容や体験学習の進め方を工夫するとともに、児童が地域の方とふれあえる場を位置づける。＊　伝統芸能『奴踊り』を継承し、小中合同運動会や地域の文化祭、学習発表会等で披露する。＊　学校運営協議会をはじめ、地域の方や保護者の意見を聞く場を大切にしながらより良い学校づくりをめざす。 |